

1 はじめに

複式学級の学習指導では、間接指導の時間に児童が主体的に学習する手立てが必要となる。また、児童一人一人に自力解決する力を身に付けさせなければならない。そこで、一人で課題を追究する「自力学習の時間」と、各学年でリーダーが中心となって進める「リーダー学習の時間」を設定するとともに、できるだけパターン化してその学習手順を示すことによって、学び方を身に付けさせるようにしている。

2 事例 (4年 算数科 2桁でわるわり算の筆算 11/12時)

①自力学習の手引

- 1 めあてをノートに書く。
- 2 計算しやすくする方法を考える。
 - ・ヒントカードを使ってもよい。
- 3 ホワイトボードに自分の考えをまとめる。
- 4 発表する。
- 5 練習問題をやる。
- 6 算数日記を書く。

②リーダー学習の手引

(ホワイトボードに書いた後)

- ・〇〇さんから、自分の考えを発表してください。
- ・〇〇さんの発表について意見はありませんか。
- ・次に、□□さん、お願いします。

(全員発表してから)

- ・同じ考えや似ている考えをまとめましょう。意見はありませんか。
- ・他に意見はありませんか。

(まとめは先生が来てから)

- ・練習問題をしましょう。時間は・・・までです。(タイマー^{せってい}設定)

(タイマーが鳴ったら)

- ・今解いている問題が終わったら、算数日記を書きましょう。

「①自力学習の手引」は、3年・4年別にそれぞれの黒板に掲示し、授業の始めに1時間の流れを説明する。

「②リーダー学習の手引」は、その時間のリーダー(輪番制)に必要な応じて渡す。本時は①自力学習の手引きの活動「4」からリーダー学習となる。ホワイトボードに書いて各自発表する場合や、操作活動を伴う場合、また、国語科の音読を順番にする場合など、リーダーを中心にできることはパターン化して、進められるようにしている。

3 おわりに

1時間の学習の流れを確認し、児童の実態に合わせて用意したワークシートやヒントカードなどを用いて一人で課題を追究する方法を示し、学習に取り組ませることで、自力学習のできる児童に育てたいと考えている。また、自分の考えを伝え合うこと、集団の力で解決することをねらいとしてリーダー学習を位置付けている。どの児童も司会が務まるように進め方の手引を準備しているが、パターン化することで日直の司会のように習慣化し、助け合いの場面が見られるようになる。